

1978

義太夫

国立文楽劇場への提言

会長 吉川英史

義太夫協会々報
第15号

昭和53年6月5日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6-18-2
新橋演舞場別館 TEL(541)5471

目下「国立文楽劇場」を大阪に設立する案が検討され、数年後には文楽の本場大阪に、文楽の公演に適した本格的な劇場が完成することは、ご同慶にたえない。

その建設には、学識経験者の衆知を集めて、万遺漏なきを期せられることと思うから、建物や施設については安心できる。しかし「国立文楽劇場」の問題は、建物や施設だけであろうか。私はその点を問題にしたいのである。近年、国立劇場での文楽公演は、大体において満員の好成績である。大阪に国立の文楽劇場を建設しようという案は、これを背景とし、基盤にして持ち上がったものと思う。しかし、東京で満員であるからといって大

阪でも満員であるとは限らない。私の頭には、四ツ橋の文楽座のがら空きの客席で感じた寂しさと一種の無念さが、今もはっきり残っている。世界に誇るべきこの伝統芸能に対する大阪人の冷淡さが、腹立たしかった。

現在の大阪人、京阪の人の文楽に対する認識は、あの時と比べてどのくらい変わっているであろうか。もしも、余り変わっていないとすれば、過疎地に鉄道を敷設するような国費の無駄づかいになる。(現在、国立劇場の文楽公演は満員であるのに、収支は赤字と聞く。)

しかし、「国立文楽劇場」とはいいながら、文楽だけのために建設されるのではないそう

である。地歌や上方舞や歌舞伎も演じられる多目的劇場が考えられているという。つまりは、花道・セリ・スッポン・回り舞台なども備えるということであるが、あくまでも文楽のための機構を完備することを、第一目的にするのだそうである。私も賛成である。

とはいうものの、文楽の客が少なくて、地歌や上方舞や箏曲や歌舞伎の時が、客が多いということになれば、どうだろう。文楽の公演日数や回数が次第に減らされるようなことになったら、どうだろう。庇を貸して母屋を取られる醜態とならないであろうか。そんなことが初めから分かっているならば、「国立文楽劇場」という名称は、しばらくお預けにして、「関西国立劇場」とした方が無難であろう。

もしも、「国立文楽劇場」で押し通すならば、——私もこの方を望むが——、建物や設備についての研究のほかに、観客動員(聴客動員)の研究と根まわしが必要であることを力説しておきたい。



白石噺の話



内野 三 恵

碁大平記白石噺は、多作者の合同作で、段でいえば十一段、「近世邦楽年表」によると、安永九年正月二日 江戸外記座に全段上演。

段別に作者を挙げると一、(紀 上太郎)

二、(容揚黨)三、(焉 鳥旭)四、田植の段(紀)五、逆井村の段(紀)六、浅草の段(鳥亭馬馬)七、新吉原の段(鳥亭)八、屋敷の段(三津 環)九、道行 いはぬいろぎぬ(紀)十、(紀)十一、紺屋の段(紀)。

かつ馬鳥旭は鳥亭、三津 環は紀 上太郎の替名。段名を欠く段は、夫々講談本の小見出しのような文句、その尻が「大内の鶏」「首塚」「名鏡の奇特」「井出の山吹」とあるから其辺適当に口上したのか。

何しろ十一段通しの人形芝居なので丸一日。芸方も客方もおう仕事、昔の芸人が上手、客にも通が多かった訳である。

この大作のうち今原作の七段目、新吉原の

段のみが専ら行われ、古い実説物、講談本、草紙類などを読まぬと、宮城野信夫の仇討を頂点にして、その前後の関係がよく解らない。白石噺について、実説と伝えるものに、享保二年(一七一七)三月奥州白石在の農旧家、矢倉四郎左衛門の妹娘が過って伊達家の臣片倉小十郎の剣術指南田辺志摩の供先を破ったので、即時四郎左衛門は無礼討にされた。この殺害には異説も少くない。この時、姉娘おすみは十一歳、妹おたか八歳。父は六十に近く、母は既に亡かった。二人の孤児は親戚清左衛門に引取られ、仇討を依頼し仙台に至り剣士滝本伝八郎(一本に伝八)家に下女奉公の旁ら剣術を教えられ六年間の修行、姉は薙刀、妹は小大刀の印可を受けるまでに成った。偶藩主伊達重村が享保八年二月江戸から帰国の途、白石城に立寄った際、姉妹の仇討願書を呈上した。願書の趣許可され同年四月一日、仙台城下広場(一本には白鳥明神境内とある)で姉妹は本懐を遂げた。姉妹は領主重村に謁し、金五十枚づつを賜わり、奥方からは衣服を給った。指南滝本伝八は千石加増されて二千石となる。姉すみ女は伊達安芸に、妹たか女は大町備前に貰われたという。貰われたという意味が私によく分らない。

こゝに「豊安大平記」と抱合せ工作が多作

者により為されたことは前記ながら、念のため享保年代の「吉原細見」を通覧したが、大黒屋なる妓楼も揚屋も宮城野なる遊女も存在せぬ。宮城野信夫は奥州の地名から取った戯曲上の名であった。由比正雪の所謂「豊安の変」は三代將軍家光の死を潮に起った。白石噺は八代將軍吉宗の時である。

私は明治十二年金英堂梓の絵草紙「碁大平記白石咄咄宮城の信夫」を読んだ。概ね原作に倣っているが、描写に小細工や無理がなく筋が運ばれ、宮城野信夫の仇討後の処理が頗る劇的に良いと思った。

事件の発端を寛永八年とするが、此は感違誤で、仇討は享保八年(一七二三)で、姉おすみは宝永五年(一七〇八)生れ、これから算すると仇討は十六歳、妹たかは十三歳だ。感じ入りもし愕きもする。絵草紙は片倉小十郎を伊達忠宗の老臣とする。事件発端即ち与茂作殺害の時、姉十六、妹十三とする。清左衛門に預けられたのを伯母とし、妹だけが一年世話になる。姉は吉原にだが、実説にも姓氏矢倉と許された旧家で、借財のための身売はありえない。

十一段中唯一の名場面が、全くフィクションの絶頂である。昔の作者に頭を下げる他ない。

姉妹は牛込榎町の正雪の道場にある間五年

正雪夫妻から、真の妹のように愛撫され、
く修行を積む、姉は薙刀、妹は鎖鎌と手裏剣
で、道場免許の門人に遜色ない神技に達した。
仇討帰国に際し、正雪は門下の柴田三郎兵衛
を後見に付けて送った。白石城主剣道指南の
田辺志摩との血闘は、読んで涙を催し血を沸
す。一時姉妹が危うしと見た記が多い。

この絵草紙について、私は仇討後の二女の
身の振り方を讚美したが、それは勿論戯曲的
処理に於てである。即ち姉妹は志摩を討果し
首を踵に納め検視の役人に渡すと、厚く高所
に礼をし、次で二人並び西方に向い念仏を唱
え、しばし黙禱し、二人揃って自害の体に、
警護の人々驚き取鎮めるや、二女は各々黒髪
を断った。

故郷の諸事をすませた後、駿州阿部川（安
部川）弥勤寺のほとりに草庵を結び、由比正
雪への追善、両親への追福のため、生涯を念
仏三昧に終った——というのである。

実説にも所謂宮城野の歿年は不明だし、弥
勤寺も何うかと、『大日本寺院総覧』を調べ
たが静岡に弥勤寺なる寺を載せぬ。事柄がフ
ィクションゆえ、寺名も寺もどうでもよい。

一面、ひよっと考える事は、この珍しい仇
討の真相を詳しく研究されてよいと思う。

『カラオケ考』義太夫

夫乃弥本竹

当世カラオケブームで、ナツメロから現代流行歌まで、オーケストラ
伴奏で誰でもが、気軽に唄えるというので、喫茶店やバーや宴会場等で
は、マイク片手に素人のど自慢で、大モテである。

かねて私も、義太夫もカラオケで語れたらいいと、まだカラオケとい
う言葉が出来ない大分以前の事、無言の間をとって、伴奏だけの三味線
を、テープに入れて何度か試みたことがある。併し、語りとのタイミン
グを合せるのが難しく、だめ／＼ということになり、長続きはしなかつた。
——それから何年も経って私は、今更めて、カラオケを見直そうとし
ている。義太夫は本来の語る芸術であるから、難しいが、反面三味線主
体のもは、判然した拍子を譜にとって、タイミングさえうまく行けば、
結構カラオケで、三味線弾き不在の義太夫を語れるのではないかと——、
皆さんも一度試みられては如何ですか？……

更に新しく登場したのが、チャンチャカチャン。此れはナツメロを思
いつくまゝに、一二小節唄っては、次の曲へと移って行き、その合の手
に、チャンチャカチャンを入れるのである。巧リズムと唄の音低をつ
なげばよいので、例えば、ハ花つむ野辺に日は落ちて、チャンカチャン
々々々、ハ赤いリンゴに唇よせて、チャンカチャン々々々、ハ花も嵐
もふみ越えて、——といった具合である。

日本の歌謡曲などは、どれをとってみても皆んな同じようなものであ
ると思っていれば、テレビでも、オペラのアリアを此の手法で次から次
へと唄いあげた。つまり逆説的にはオペラも同じ事がいえる。ところで
義太夫はどうか、アリアともいうべきさわりを集めて、次々とリレー式
に唄い込んでみるのも又一興、曲本位に考えたら、これとても共通した
パターンを持っているので、前の例にもれない。さわりの七八曲も並べ
てアレンジしてみれば、又変った趣向で面白く、それこそ義太夫のチャ
ンチャカチャンが出来上る。十種香のさわりから宿屋に移り酒屋に移る
といったような具合で、此れも皆さんで試みられては如何ですか？

音楽とは書いて字の如く音を楽しむもの、即ち人間本来の欲望なので、
あまり難しい理屈や講釈は抜きで、義太夫をリラックスに採上げてみる
のも、たまにはよいかも知れません。

学校巡演レポート〔4〕

御年配の方はよく御存知の、我が国で唯一の文科系単科大学で、国文学・中国文学で有名な二松学舎大学の附属高等学校では、文化庁助成による学校巡演（生徒の浄瑠璃鑑賞会）を毎年行っている。次の各短文は、そのときに鑑賞した高校生の感想文の一部を抜粋したものである。

男子生徒

★よくは解らなかったが、三味線の音色は、心に残るものがあった。
★浄瑠璃 特にそのうちの義太夫節とはどういうものかを予め自分で調べ、当日は浄瑠璃と上演作品について先生からお話をうかがった上で鑑賞したので、よくは解らなかったが、素直に聴くことができた。

★今までに幾度か観た能・狂言、歌舞伎とは違ひ、初めて聴いた浄るりは、ことばや節に特徴があり、よく解らないわりには、おもしろく鑑賞した。ことばと三味線とがうまく合っていると感じた。

1978
★能・狂言や歌舞伎は目で観ているので、たいの筋はつかめるが、浄るりは、予備知識があまりにも少な過ぎるし、耳で聴くだけなので、よく解らなかった。それでは、全くつ

まらなかったかというところでもない。特に、三味線のフレーズがおもしろかった。この次は、人形浄るりを鑑賞したいと思う。

★浄るりというものを初めて聴いた。よくは解らないが、なにか「人間のリズム」という感じがする。私共の生活とどこかみ合うところがある。だが今日では、忘れられていることが多いのではないか。先祖代代、今日まで築いて来たものを、我々の代で終らせてもよいものだろうか。現代の学校生活は学習にのみ偏りがちだが、人間にとって重要なものを忘れていっていると思う。これから浄るりについていっそう知識を得たい。

★浄るりという名称は中学校の社会科で聞いたことがあるだけで、どういうものなのか、関心があったが、語りを聴いているうちに睡くなってしまった。

女子生徒

★事前指導や印刷物によって、作品の内容は或る程度理解できたが、表現の形式が古くからのものとはいえず、現代の我々の生活とはかけ離れているため、初めはしっくり来なかったが、精神を集中して聴いているうちに、独特の味に馴れた。昔の人の喜びや悲しみを表現し、伝えて来た浄るりは、現代では目立たなくはなっているものの、今なお続いているのであるから、日本人の心の歴史を物語るも

のとして、永久に伝わり発展してほしい。真の理解は、今の私には難しいが、今回の鑑賞で、古典の世界についての知識を深め、その中に少しは入ることができた。

★中学校の音楽の時間に柳の木遣音頭を鑑賞し、義太夫節については一応学習しているはずなのに、全然といってよいほどことばが理解できなかったのはなぜだろうか。それはきっと鑑賞することが少ないからだろう。解ることはとても難しい。だから学校でも、有志が集まって鑑賞の機会をもっと作ったらどうだろうか。

★優れた古典芸能であることは聞いていたがあまり広く鑑賞されてはいないが、私は初めて鑑賞して、その理由が一つ判ったような気がする。それは、歌舞伎と異り、耳で聴くだけだからではないか。目にも訴える工夫をしないと、これからの社会では一般のひとびとからそっぽを向かれてしまうのではなからうか。しかし古典芸能を粗末にはできない。少しずつでも理解してゆかなくては、いつのまにか無くなってしまふ。芸術について語ることは、私共には早過ぎるが。

★だいぶ前に鑑賞したことがあるが、あまりよく覚えていない。今回は解説を聞いた印刷物を読んだから、少しは解ったが語りの内容はやはりあまり理解できなかった。

ただ、江戸時代の人びとと同じものを今聴いているのかと思うと、不思議な気がした。とにかく、このように昔から続いているものは、今後も未長く伝える必要がある。歳をとってから興味は湧くだろうし、そのときもし浄るりが無かったら、寂しくなるのではなからうか。

★初めて聴いたが、内容が解らなく、睡くなって困った。古典を嫌がる人が多いのだが小さいときから広く古典を教え、興味をもたせると、古典のよさが解るのではないか。古典のよさを知らない私共は不憫な世代だ。

★初めは、何を語っているのか全然解らなかつたが、聴いているうちに少しづつ解るようになった。と同時に、太夫も三味線も、熱演しているだけではなく、非常に稽古を積んでいるらしいと感じた。昔の人は、このように難しいものを、よくもまあ娯楽として楽しむことができたものだと思う。とにかく、出演者の真剣な態度に打たれた。

★私共にとって古典芸能の鑑賞は英語劇同様に、たいへん難しい。古文を読むことすらまだ不十分であり、聞くことはよけいに難しいので、半分ぐらいしか解らない。もっと上級になって文語体に慣れてからのほうが、深く味わえるのではなからうか。とにかく、もう少し経ってからまた聴いてみたいと思う。

歌舞伎の義太夫Ⅱ竹本連中の

後継者養成事業

竹本講習について(五)

約二年半続けられた竹本講習も、ひと旬切りの時を迎えました。三月二十二日に第四期歌舞伎研修生並びに竹本講習生の発表会(卒業公演)が行われ、小林将人(竹本清太夫)・林明(竹本国太夫)の両君が、「帯屋」・「櫓のお七」・「佐太村」をそれぞれ熱演しましたが、子期以上の成績である、として目出たく卒業の運びとなりました。

すぐさま松竹の竹本連中に加えられ、四月歌舞伎座の「蝶の道行」・「曾根崎心中」に出演、五月大阪朝日座の「義経千本桜通し」で重要な役をこなし、急病で倒れた人の代役迄勤めるといふ大活躍ぶりでありました。六月は演舞場に清太夫君、名古屋中日劇場に国太夫君が出演していますが、今後の精進を望みたいと思います。(前号に御紹介した喜太夫(高橋)君は残念乍ら講習生を辞め、フリとして竹本の勉強をすることになり、又久太夫君は目下病氣療養中で休み、現在は三味線の中橋君のみが講習を受けております。)この間、国立劇場養成課始め関係者の方々は大変なことでしたが、一息入れる間もなく「竹本講習生」の募集を行い、四月二十一日

竹本雛太夫師

おめでとうございます

竹本雛太夫師が、去る三月二十五日、文化財保護審議会より、重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。今後益々健康に留意され、歌舞伎義太夫の為に氣を吐いて下さいませように。

の試験日には十五名受験、太夫四名・三味線二名が合格、五月初めより直ちに講習が行われております。十五名受験、六名合格といましても、平均年齢約三十才、義太夫経験は皆無にひとしいので、中間試験で何人残るか分りませんが、一日も早く竹本のことを理解し、そして技芸に勤しんでもらいたいと念ずるものであります。(以下次号)

竹本扇太夫師

おめでとうございます

竹本扇太夫師が、去る四月二十九日、勲五等双光旭日章を受けられました。竹本界に於ける永年の功労に依るものであります。今後も益々活躍され、技芸の継承の為に御尽力下さいませように。

協会の動き

昭和53年1月より
昭和53年6月まで

(昭和五十二年度)

1月20・21日 義太夫協会公演会 若手が

猿三郎師指導および補導出演
の下に「七福神」を演奏した。

於本牧亭(写真参照)

1月27日 新春懇親会 於ほんもく

1月28日 学校巡演 於明星学苑

1月30日 学校巡演 於砧工業高校

1月31日 教師のための義太夫講習会 於俳

優協会稽古場

2月16日 芸団協事務局長会議

2月17日 定例理事会 五十三年度事業計画

について 於新小松

2月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭

豊沢みどり初舞台

2月23日 芸団協邦楽部門会議

3月10日 邦楽連合会 於古曲会

3月10日 52年度芸術関係団体補助金(青少

年等芸術普及)交付申請書提出

3月20日 教師のための義太夫講習会 八王

子車人形参加 於本牧亭

3月21日

義太夫協会公演会 席上、芸団協
助成による新人奨励賞の表彰式を
行う。52年度受賞者は鶴沢津賀友。

会長より「神棚にあげるか、今日

の拍手を心に刻みこんで努力の源

泉にするか、賞状の価値は受ける

人の心持ち次第。今後の精進を期

待する」旨の挨拶。於本牧亭

3月22日

第四期歌舞伎俳優研修生発表会

竹本講習生発表会 於国立小劇場

文化庁より52年度芸術関係団体補

助金交付決定通知

芸団協第四回功労者賞表彰式 於

銀座東急ホテル 本年度は特にか

げの功労者として、床世話の小林

新吉氏が受賞した。

名韻会学生大会 義太夫教室第30

期生が「道中双六」OBが「橋弁

慶」を演奏した。指導 竹本弥乃

太夫 於東横ホール

(昭和五十三年度)

4月19日 定例理事会 五十三年度事業の具

体案検討他 於新小松

4月19日 昭和52年度芸術関係団体補助金の

額の確定通知 三、五〇〇、〇〇〇円

4月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭

5月6日 正会員研究室開設 舞台に備えて

三味線の息と問の研究 講師 越

道他 於新小松

5月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭

6月1日 文化庁助成「義太夫教室」第31期

開講式 約40名が受講中 於俳優

協会稽古場

6月5日 会報第15号発行



七福神宝の入船 芸廻しの段

随想

寺澤正夫

— 織田作・女義太夫と黒豆の味より —

最高の芸術を最低の料金で、できるだけ多くの人々に鑑賞していただきたい——こういう願いで始められた都民芸術フェスティバルも、今年で十周年を迎え、二月五日、第一生命ホールで開催された。出演者、曲目とも内容充実した演奏会であったが、ここに特記したいのは、一流揃いの芸能家によって、社団法人義太夫協会を代表して出演した素八（光秀）、朝重（十次郎）、土佐菊（初菊）、越道（操）、駒竜（さつき）、三味線駒登久の（絵本太功記十段目 尼ヶ崎の段）の出色ある舞台であった。夜の部ではへ三十三所花の山 壺坂寺の段を、ベテラン土佐広（沢市）春華（お里）コンビに、三味線仙広、ツレ弾公治が熱演して好評を博したが、ここにも庶民のための芸能が展開されていた。

1978. 6. 5
東京上野広小路にある本牧亭は、往年の大坂播重席に匹敵する女流義太夫のための月例公演の場所を提供し、芸熱心な若手・中堅・老練な人々が文字通り研を競って、毎月二十日、二十一日の両日は我々ファンの集中する義太夫道場となっている。私も二月二十日夜

鑑賞したが、さすが老年層の方が多い愛好家に交って男女学生を加えた中年青年層も毎月常連として来場している姿に感心したのであった。綾之助・駒登久へ明烏六花曙 山名屋の段、土佐広・仙広コンビへ桜鏝恨蛟輪 鰻谷の段の名調子に続いての大切は、お馴染み掛け合いでへ関取千両幟 猪名川内の段、駒竜（猪名川）、素八（鉄ヶ嶽）、駒之助（おとわ）のトリオにわざわざ大阪から参加の三味線寛八が熱演で丁丁発止の語り合いには満員の観客から万雷の拍手がおくられた。特に駒之助の進境著しい出来栄えと、フィナーレに特別演奏した寛八のやぐら太鼓のバチさばきの素敵な曲弾きは、誰一人としても、頭を下げてなくなる芸能の極地であり、これこそ本格的な庶民のための芸術であると感激した早春の一夜であった。

*
賛助会員寺沢氏が、産研ジャーナル53年4月号に発表された随想「織田作・女義太夫と黒豆の味」から紙面の都合で、ごく一部を抜粋、掲載させて頂きました。

親睦旅行会御案内

今年の新年会は、義太夫をはじめ、小唄、詩吟、相撲甚句等々の諸芸がひきもきらず披露され、近年になく賑やかな集りでした。席上、この楽しさを心ゆくまで味わいたいと旅行計画がもちあがったため、役員会では早速「伊豆一周の旅」を企画いたしました。御家族、友人、どなたでも結構。往復とも観光バス利用の気楽な旅です。

どうぞお誘い合せ、御参加下さい。

伊豆一周の旅（二泊三日）

期日 6月28日（水）～6月30日（金）

集合 6月28日（水）午前8時

新橋演舞場別館前

会費 一三〇〇〇円（二泊六食）

酒又はジュース二本付

観光バス代含む

旅館 伊豆長岡「さかなや」（予定）

申込 事務局まで 五四一―五四七―

月々金 10時～3時

メ切 6月14日（水）

尚、申込が定員（四〇名）に満たない場合は中止することもあります。

(投稿)

玉手御前論

桑原 須賀夫

15

報 々 会 協 夫 太 義

1978 6.5

柳田国男氏の論考「玉依姫考」によりまずと、玉依、玉手、玉藻、などなど、頭に「玉」の一字を冠した女性の名は固有名詞ではなく普通名詞で、特定の個人を意味せず、或る特別な役割を担った女性にのみ共通するものなのだそうです。そしてその役割とは、神に仕えて神意を伺う女性、神と人とを繋ぐ女性つまり、巫子としての役割なのであります。玉依姫は、『古事記』上つ巻に見え、神武天皇を生んだ方で、魂の憑(よ)る姫の謂であります。

こうした民俗学的事象が玉手御前とどんな関係があるのかと思われるかも知れませんが拙文「浄瑠璃物語と義太夫」(会報第十号)でも簡単に触れたように、巫子と救済のテーマは義太夫の底をいつも流れる主調音なのであって、玉手御前の「性格」、その奇妙な魅力も、このことと無縁ではないと私には思われます。

ところで、古典的名著「文楽の研究」を書いた三宅周太郎氏は、つねづね、「合邦」を矛盾に満ちた不合理千万な義太夫の代表のように云っていたようですが、では、「合邦」

が嫌いなのかというと、決してそうではなく節付や何かに頼る面白いところがあって捨て難い、と述べていた由であります。また、谷崎潤一郎氏も『所謂痴呆の芸術について』という随筆の中で此の作品を例に、さんざん義太夫の悪口を云っております。山城や六代目と親しく、義太夫や歌舞伎の良き理解者と目されていた氏の発言だけに、発表当時(二三年七月)は斯界をはじめ多くの人たちに驚きを与えました。その鋒先の鋭い、情理兼ね備えた名文は美事で、思わず「大谷崎」と声を掛けたくなる程であります。さすがに大芸術家の炯眼恐るべし、の感を抱かせられます。しかし、よく読んでみますと、皮肉なことに氏がむきになって義太夫の悪口を言えば言うほど、却って、「合邦」全体の怪奇味と玉手御前の悪魔的魅力が行間から立昇って私たちの胸に迫るのであります。実は、この「悪魔的」なる言葉も氏の文章からの借用で、どうも私のみるところ、谷崎氏は玉手の「悪魔的」魅力に少からず参っているのではないかと察せられます。「嫌よ嫌よも好きのうち」ということもあり、谷崎文学の特色から推しても、氏が玉手に興味を抱くことは十分考えられることで、この一文は、そのはなはだ逆説的な表現ではないか、と私は解釈するのであります。冗談はさておき、谷崎文学に於て、女性

は、互に相反するダブル・イメージを持っており、一方は崇高な慈母のイメージであり、他方は、美しい肉体のうちに一種の意地悪い、乃至は残酷な魔性を宿した女性のそれであり、前者の系列には「母を恋ふる記」「少将滋幹の母」後者には「刺青」「春琴抄」「痴人の愛」などが属します。谷崎論はこのくらいにして、吾が玉手にも、これとよく似たダブル・イメージが認められはしないでしょうか。

(俊徳丸が)立退き給へば縋り付き、母呼はり聞きとむない。年はお前に一つか二つ、老女房がそれ程いやか。否でも応でも惚れた惚れた。抱かれて寝ねばいつまでも放しはせじと抱き附く。——上の巻口毒酒の段——

この場の玉手はほとんど狂乱の態で、能の『弱法師』では俊徳丸が狂って歩くのですが義太夫ではそれが玉手に替っております。ここにはあきらかに妖婦・毒婦の気分が横溢して、この魔性の女のイメージはこの段のすぐあと「高安館」でも「合邦内」でも同様にみられます。ところが、所謂「もどり」でこれらすべてが俊徳丸やお家を救うための苦肉の策、玉手の「演戯」であったことがあかされ、ハラハラして見きぎしていた往時の見物は、この常套的な結末に安心し、拍手喝采したのでありましょうが、現代の知的な(?)

観客は不満に堪えない、という訳であります。「矛盾に満ちた不合理千両な義太夫」という批判の中心もこの点にあり、谷崎氏も「前半に於ける玉手の言動が実は狂言であったと言うことになれば、折角の悪魔的な美しさが俄然光輝を失って、全然無意味な、奇妙千両な厭らしいものに墮してしまふ。いったい作者は、なぜ後半に於てあゝいう風などんでん覆しを食わす必要があったのか」と疑問を述べております。前にも申したように、この指摘はなかなか鋭いものであります。成程、「合那」には不手際が目立ちます。決して一流の作とは申されません。けれども、私は、義太夫作品に西洋流の首尾一貫した合理的な筋立てを期待するのは見当違いではないかと考えるものであります。そうした見方は近代の合理主義や心理主義に毒された謬見で、義太夫の本質を見誤ったものであります。「合那」とよく比較される作品にラシーヌの『フェニドル』という芝居があります。これはギリシア悲劇に拠ったもので、義理の息子を愛した王妃フェニドルが思いを入れられず毒を仰いで死ぬ古典悲劇ですが、もし玉手がこのフェニドルのように「恋する女」として死んだとしたら（それなりに面白い作品になったかも知れませんが）それでは義太夫とは云えないのであります。何故なら、義太夫の目的乃至

効果というものは、聞く人をして「救われた」「ホッとした」という救済感情を起こさせることにあるからで、このことは義太夫の本質に係り義太夫が遠くは平曲に、近くは説教節や能楽に範を求めていることを思えば当然のことでありましよう。玉手が如何にも縦横に「悪魔的」魅力を發揮しながらも、最後は型通り「貞女の鏡」として死んでみせなければならなかった所以であります。命を賭してお家の大事を救った玉手が救われなければ見物も救われず、こうした玉手の背後には古い、「巫子」の姿が揺曳しているように、私には思われてなりません。

因みに、ラシーヌは「フェニドル」のあとがきで作品の意図を「魂の救済のない人間の生と死を描くこと」と述べております。それにしても、救われぬまゝに恋に死んだ王妃フェニドルと、百万遍の念仏のうちに往生した玉手とは、果して、どちらが幸福な女性だったのでしょうか。

△寄 贈▽

- 豊沢 猿若様 イト 多数
- 竹本土佐広様 レコード 沼津全十二枚
- 鮎屋 上五枚・下六枚
- 熊谷陣屋 全十枚
- 酒屋 全八枚
- 文楽床本地 三十冊

新入会員御紹介（53年2月以降）
特別会員

賛助会員

準賛助会員

住所(住居表示)変更

正会員

特別会員

賛助会員

準賛助会員

改名

正会員 野沢松江改め野沢吉三(きちぞう)
準賛助会員 講談真打昇進につき
田辺南洲改め悟道軒圓玉

会員名簿発行

— 御協力お願い —

新入会員も増えましたので、今秋を目
標に会員名簿を発行することになりました。
つきましては、

- * 住所(住居表示)、電話の変わった方
- * 電話新設・電話を登録していない方
- * 入会希望の方

事務局まで御一報下さい(七月末日メ切)
(五四一) 五四七一 月/金 10/3時

尚、広告欄もありますので、御希望の
場合は御相談下さい。

△お見舞▽

☆竹本君太夫師(正会員)

大腿部骨折のため伴病院(新宿区荒木町
十三)に入院中

△訂正▽

前号掲載の第七回慈善公演決算報告では、
当方の手違いにより、石塚晃玉様 五、〇〇〇
円、鶴沢三生様 三、〇〇〇円 計八、〇〇〇円
を、会場募金箱の方へ計上してしまいました。
正しくは、会場募金箱 五一、一二円 協会
扱御寄附 二九六、九〇〇円となります。
右、お詫びして訂正いたします。

計報

豊竹巴太夫師(正会員) 52年12月13日逝去
竹本 越駒師(正会員) 53年2月17日逝去
謹んでお悔み申し上げます。

編集後記

この春には竹本界の長老お二人が、人間国
宝・叙勲の榮に輝いた。今後の御活躍を願う
と共に、数少い後進者の指導に尽くしていた
だきたい。数少いといえ竹本界だけではなく、
協会技芸者(女流・舞踊界他)も若い人
が少いのが最大の悩みである。先細りになっ
てこの会報も出せなくなるとは大変。会員皆
様、奇抜な案でも結構です。お寄せ下さい。